

データの利活用による検査・監査・評価の改善

近年、ビッグデータの利活用を始めとして、社会におけるデータの利活用への関心は高まっており、平成 28 年には官民データ活用推進基本法(平成 28 年法律第 103 号)が施行され、官民データの適正かつ効果的な活用の推進が図られるなどしている。

国の取り組みを見ると、政府全体で EBPM(証拠に基づく政策立案)が推進されており、統計等のデータをもとに政策の企画立案過程を変革する取り組みが開始されている。

また、地方公共団体では、統一的な基準により整備した地方公会計に係る財務書類等の活用方策の検討は進められ、独立行政法人においても、財務報告のより一層の活用に向けた取り組みが進められている。

このように、各分野でデータをもとにした業務の改善が図られているなか、検査・監査・評価の分野においてもデータを有効活用して、その内容の改善を図るとともに、検査・監査・評価対象の事業の改善に結びつけていく必要がある。

そこで、公会計の検査・監査・評価に携わる各機関が、データをどのように検査等の現場で利活用しているか、また今後どのように活用すべきかなどの点について議論する。

2019-8-23 会計検査院

日本消防会館

基調講演から

エビデンスの概念

- ・政府における明確な定義は存在せず。
- ・「政策手段と政策効果の因果関係に関する客観的合理的根拠」？
- ・研究者の間でも諸説あり。

方法論

- ・行政学、経済学など研究者の間でもスタンスに差異あり。
- ・政府の取り組みについては方法論として

①ロジックモデルの作成と

②政策効果に関する因果関係の検証

に焦点が当たっている。

EBPM

Evidence Based Policy Making

「エビデンスを重視した政策立案が目指すものは何か」

1、EBPM が今次において議論される背景

- ・我が国では政策評価がある中、更に EBPM が議論されるようになった背景

統計改善→政策立案→統計改革推進会議→統計の不備露呈

2、EBPMにおいて求められる観点

・課題の設定→改革ツール→ロジックモデル作成→政策効果に関する因果関係の検証

EBPMと統計について

統計は過去のデータ

政策は、これからのもの

コミュニケーションを仲介し

目的・課題を承起する

A、正しい現状認識→課題設立化

B、→ツール化

C、ロジックを深掘りする

エビデンスで目標のステップを踏む

改めてEBPMが求められる理由

(社会的、政治的、国際動向などから)

政策立案における人材育成の必要性

そのような人材が民間に果たす役割と教育現場の視点

まとめ

- ・取り組みの気づき
- ・EBPMのさらなる定着に向けて
- ・公会計におけるエビデンスの意義

小括

- ・統計の精度を上げ、政策立案のプロを育てる
- ・フローをしっかりと書くこと

EBPMに必要なスキル

統計リテラシー→分析・ロジック形成→利活用

証拠力を検証、条件の分析、統合化

AIは複数要因の相関関係を読み解くもの

EBPMの実践

評価文化の重要性→エビデンスの積み上げ

EBPM→ポリシーメイキング→IR

見える化→プロセス力が成立するように

評価の海外と国内の比較

保証 検査

基準あり なし

専門家 内部人事

外部統制 内部統制

EBPM と政策評価について

政策立案に帰する

マインドを変える、組織文化を変える

国立大学法人の対応

法人の幹事について→海外では説明しづらい

国立大学法人における EBPM のプロセスに着目した幹事監査
内容

国立法人における幹事の役割

EBPM の視点から、国立大学法人幹事として特に意識している事項

EBPM プロセス=国立法人幹事としての最大の関心事項

ガバナンス効果と教育研究等の評価

国立大学法人の安定財源の確保へ

EBPM 成立の前提とする

大学の IR 機能の健全性

大学経営陣の意思決定における EBPM プロセスの健全性

EBPM プロセス「構成員の理解と協働を導く手順の健全性」

教育へのコミット状況

研究の成果

社会貢献の状況

診療へのコミット状況

学内マネジメントへのコミット状況

以上の ➡□ 数値化→目標管理戦略的配置

エビデンスに基づいたコミュニケーション・プロセス

大阪市行政委員会事務局の取り組み

(監査プロセス→監査におけるデータ利活用の現況)

・年度計画段階のリスク評価

→業務概要の把握

・実地監査段階での異常値の検出

今後の展望

・データ分析の進化

コンピュータ支援監査技法

データ分析

人工知能

・監査技法の変化の時代に必要とされるスキル

ビジネス業務力

データサイエンス力

データエンジニアリング

EBPM 推進目標

大阪市が抱える課題

・施策判断

・行財政改革の徹底

・職員の負荷軽減

➡□事業の選択と集中

政策効果の肥大化

最小コスト・資源での最大効果

証拠の電子化→効率的になる

→なりすまし等リスク対応

自治体における EBPM の活用状況

行政運営の質的向上に

事例を発信すること→共有→蓄積

監察ツール→クラウド化→データセキュリティ化

公認会計士協会

利活用と、目的を明確化する

政策のロジック化→合目的的

課題認識と解決力の涵養を

データの標準化へ

行政評価・EBPM の果たす役割、効果を期待→EBPM 要素の政策評価制度への取り込み

会計検査院

- 1、電子データをどのように入手しているか
- 2、電子データをどのように利活用しているか
- 3、今後の課題と展望をどのように考えるか

監査支援ツール活用の契機

- ・検査対象件数の増大
- ・共通システムの予算執行管理
- ・データ分析過程の詳細記録の必要性

セキュリティーの確保

人材育成・研修